

経済の好循環実現検討専門チームにおける検討のねらい（案）

平成 25 年 9 月 24 日

1. 問題意識

本専門チームでは、企業活動のグローバル化、非正規雇用の拡大、労使関係の変化などの経済社会の現状を分析するとともに、景気回復の中で生じている企業収益の増加が、デフレを脱却させ、雇用の拡大、賃金上昇、消費増加という好循環を起動させていくための道筋を明らかにしていく。

2. 主要論点（案）

(1) 好循環実現の課題

これまでデフレが続いてきた背景として、どのような経済・雇用の変化やメカニズムがあったのか。デフレ脱却への好循環を生み、持続的な成長につなげていくための課題は何か。

(2) 雇用と賃金の課題

① 非正規雇用の増大の影響

どのようなメカニズムによって非正規雇用が増大したのか。その結果、短期的、長期的に我が国経済にどのような問題があるか。好循環を実現するため、多様な働き方を含め、どのような対応が必要か。

② 雇用と賃金

今回の景気回復がどのように企業収益や雇用、賃金の上昇につながっていくか。大・中小企業や製造・非製造企業の間で、どのようなラグを伴って波及するか。デフレ脱却の中で、企業収益の増加をどのように配分していくことが、経済全体として持続的な好循環を実現するために望ましいか。

(3) 生産性の向上のための課題

① 生産性の向上

グローバル競争の中で、企業がイノベーションを生み出し付加価値生産性を向上させるためには、どのような対応が必要か。そのために、経営者がリスクをとり、労働者が生産性の向上に見合った報酬を得られるようにするにはどうすればよいか。失業なき労働移動によって、経営資源や労働を生産性の高い分野に移転するにはどうすればよいか。多様な働き方を含め、ワーク・ライフ・バランス（WLB）の実現を生産性向上にどのようにつなげていくか。

② サービス産業の生産性向上

雇用吸収力のあるサービス産業は、製造業との対比においてどのような特質があり、賃金の上昇につながる生産性向上を図るためにはどのような課題があるか。

(4) 人的投資促進の課題

人的投資がどのように付加価値生産性を高めるか。どのような人的投資や教育訓練が効果的か。

(5) 海外諸国の動向

このような課題に対し、海外ではどのような対応がはかられているか。

3. スケジュール（案）

年内に3回程度開催予定（1会合あたり所要1時間半程度）。

○第1回（9月24日）

- ・ 専門チームの運営について
- ・ 検討のねらいについて
- ・ 経済・雇用情勢について
- ・ 外部有識者のプレゼンテーション

※山田久氏（株式会社日本総合研究所）

「賃金デフレ脱却への処方箋 - 政労使協議の役割-」

濱口桂一郎氏（独立行政法人労働政策研究・研修機構）

「EUにおける賃金に関する政労使協議をめぐる状況」

- ・ 意見交換

○第2回（10月4日）

- ・ 委員（3名※）のプレゼンテーション
※樋口委員、照山委員、脇田委員
- ・ 意見交換

○第3回（11月）

- ・ 専門チームの中間報告について